

## 新型コロナウイルス感染症中に急性虫垂炎を発症した小児例

かわ の さ き こ  
川 野 早紀子<sup>1)2)</sup>  
ひら で と も ひろ  
平 出 智 裕<sup>2)</sup>

おか むら り か こ  
岡 村 理香子<sup>2)3)</sup>  
はねだ やす ひろ  
羽根田 泰 宏<sup>2)</sup>

こ いけ だい すけ  
小 池 大 輔<sup>2)3)</sup>  
かな い り え  
金 井 理 恵<sup>2)</sup>

キーワード：新型コロナウイルス，急性虫垂炎，消化器症状，腸内細菌叢，腸管バリア

### 要 旨

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）はオミクロン株の流行以降，小児へも感染が広まった。COVID-19の症状のひとつとして，嘔吐や下痢といった消化器症状が挙げられるが，今回，COVID-19と急性虫垂炎を合併した症例を経験した。症例は7歳の男児で，COVID-19発症3日目に一旦解熱が得られたものの，発症4日目に消化器症状（嘔吐と腹痛）が出現した。炎症反応が正常値であったため，COVID-19に伴う胃腸炎症状と判断した。しかし，入院後に再発熱し腹痛も持続，炎症反応も上昇したため，画像検査で急性虫垂炎と診断し，虫垂切除術および抗菌薬投与により軽快した。SARS-CoV-2は腸管にも感染することから，COVID-19でも消化器症状は生じ得るが，本症例のように，解熱後の再発熱や強い腹痛が持続する場合は，急性虫垂炎も念頭に精査を行う必要があると思われる。また，SARS-CoV-2が腸管へ感染した際，腸内細菌叢の変化や腸管バリアの破綻を引き起こすことから，急性虫垂炎発症リスクを上昇させる可能性が示唆された。

### 【序 言】

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は2019年12月に中国武漢市で発見され，2020年1月に国内で最初の感染者が報告された<sup>1)</sup>。2021年12月頃よりオミクロン株が急増し，同時に小児の感

染も増加傾向となった<sup>1)</sup>。COVID-19の症状として，咳嗽・鼻汁などの気道症状に加え，腹痛や嘔吐，下痢といった消化器症状も報告されている<sup>2)</sup>。

小児の急性虫垂炎は，10~14歳で最も発生率が高くなり，人口1万人に対する虫垂切除数の平均は男性13.2人，女性8.5人と言われている<sup>3)</sup>。小児における虫垂炎の穿孔率は15.9~34.8%と言われており，特に幼児期においては，急性虫垂炎としての発生頻度は低いが，穿孔率は高いとされる<sup>3)</sup>。虫垂炎を疑う症状として，右下腹部痛や圧痛，嘔吐は感度が高く，痛みの移動，下痢，反跳痛は特

Sakiko KAWANO et al.

1) 浜田医療センター小児科

2) 島根県立中央病院小児科

3) 島根大学医学部小児科

連絡先：〒697-8511 島根県浜田市浅井町777番地12

浜田医療センター小児科